

**「効率的な業務運営体制の構築について」経営協議会開催**

**「非現業部門における業務運営体制の見直しについて」業務委員会開催**

**リニア中央新幹線開業に向け効率化にキックオフ？！**

## リニア開業に向けた効率化反対！

本部は10月11日、「効率的な業務運営体制の構築について」経営協議会を開催しました。また経営協議会后に「非現業部門における業務運営体制の見直しについて」業務委員会を開催しました。

「効率的な業務運営体制の構築について」はリニア中央新幹線開業とされる15年後を見据えた会社が、業務運営体制を見直し更なる効率化にキックオフ宣言を行ったということです。「非現業部門における業務運営体制の見直しについて」ではこれを具体化したものとして、非現業部門の効率化について説明されました。

会社は今後、非現業、現業を問わず効率化を推進することを宣言しました。しかし、私たちはリニア中央新幹線建設を理由とした新たな効率化に反対します。以下、会社の説明と主な議論の内容です。

### リニア開業に向け会社はさらなる効率化を検討！

組合：「効率的な業務運営体制の構築について」なぜこの時期に説明するのか。

会社：業務の効率化を行うことは一般社員にも関わることなのでメッセージを伝え、十分な時間をとるために今日の説明となった。

組合：効率化は年度初に説明するのではないか。

会社：今年度中ならば今年度に話をするが、この後の業務委員会で来年度の効率化の説明を行うことになったので、前広に行うことになった。

組合：会社はこれまで一定のスパンで目標を置いて効率化を行ってきたが、今回はどのようなスパンで行うのか。

会社：リニア中央新幹線の開業となる15年後を見据えて、今できることを考え、15年間走りながら行っていく。

組合：非現業以外に現業機関で効率化事案となるものはないのか。

会社：現業部分も視野に入れているが現時点では白紙だ。  
組合：運転士、検修業務で走り装置など安全に直接関わる部分ではどうか。  
会社：現在は具体的にないが、安全が確保されればアウトソーシングできるものがあるかもしれない。全系統において効率化を検討している。  
組合：JR他社の効率化を参考にすることはあるのか。  
会社：他社の効率化を参考とすることはない。  
組合：リニア中央新幹線開業を目指して業務をスリム化するという事か。  
会社：業務にあわせて遠い将来に変わることはあるが、直ちに変わるものではない。開業に向けて明確なものではないが、今日がキックオフということである。  
組合：組合として危惧するのは安全に関わる部分の外注化である。かつて安全に関わる部分の外注化は行わないという確認はなかったか。  
会社：安全の確保は大前提である。  
組合：前広に説明するというが、成案ができ次第では議論する時間が取れない。  
会社：説明は適切な時期に行っていく。

## **まずは来年7月に非現業部門で業務効率化！**

組合：今回の効率化で何名が削減されるのか。  
会社：幾ばくかの人員が削減されるが多くはない。  
組合：この他にも効率化を考えているのか。  
会社：将来的なことは白紙であるが、見直す余地のあるものを行っていく。  
組合：抜本的な見直しはこれから考えるのか。  
会社：そうである。  
組合：会社の説明ではイメージがつかめない。  
会社：これから細かいところを詰めていく。現業の一般社員にも関わることだ。一般社員に業務の効率化を説明するためにも今回説明しているが、さらに深度化していく  
組合：これまで手をつけていなかった部分も効率化、外注化するという事か。  
会社：アウトソーシングは安全の確保を考えて行かなくてはならない。現時点では白紙である。  
組合：今回の効率化は非現業社員の能力向上を目指すとはあるが、どういうことか。  
会社：最終的に非現業の体質強化を目指すものである。  
組合：今の業務を見直すことで時間を生み出し、他の業務を行うことは一人あたりの働き度が高まることではないのか。  
会社：見直しで生まれた時間で行うので総仕事量が増えることではない。  
組合：人員削減が目的ではないのか。  
会社：削減が目的ではないが、結果として削減になる場合がある。

組合：社員は安全で安心して働けることを望んでいる。安全が確保できない効率化には反対する。非現業職場は精神的にも苦勞する職場である。効率化ありきで行うと必ず無理が生じる。社員を大切にすること。  
会社：社員のやる気を削ぐことはしないが、必要な効率化は行っていく。

以 上